

埼玉県所沢市

学校

所沢市立松井小学校

学校運営協議会

所沢市立松井小学校 学校運営協議会

令和5年4月1日 設置

委員構成

- ①PTA、②後援会
- ③パトロール・ボランティア隊
- ④学校開放運営委員会
- ⑤民生委員・児童委員
- ⑥自治会、⑧自主防災
- ⑨松井公民館、⑩まっぴら児童館
- ⑪学校図書館長
- ⑫うかごまつい、⑬学校

13名

会議回数

年間：会議3回、学びの場3回

地域学校協働活動推進員等数 ()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員 1名 (1名)

地域コーディネーター 2名 (2名)

地域学校協働本部

松井小学校 学校開放運営委員会

地域による不登校支援に向けた“大人の学び”を生かしたサポーター制度の構築

背景・取組概要

- ◆平成17年度から学校開放を利用するスポーツ団体やPTA等からなる学校開放運営委員会が地域学校協働本部の役割を担っており、放課後子供教室や環境美化活動、子どもフェスティバル等の**地域学校協働活動が盛んな地域**である。
- ◆コロナ禍以前に比べ、不登校児童が増えており、令和4年度には、校内教育支援センター的役割を担う「サポート・ステーション」を年度途中の2学期から学校独自で立ち上げたが、教員や支援員等の人手不足により、翌年度以降の継続が困難であった。
- ◆所沢市では、**令和5年度から学校運営協議会制度を導入し、松井小学校がモデル校の一つとして取り組み始めた。**

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆学校運営協議会におけるアンケートの活用と熟議の具現化

松井小学校の学校運営協議会では、**毎回、会議を開催する前に、地域や保護者に議題に関するアンケートを実施し、その結果を踏まえ、熟議を展開している。**令和5年6月の第1回学校運営協議会では、学校や学区の課題について、アンケート結果をもとに話し合い、「不登校の増加」を重点課題とした。課題解決の方策について意見を交わす中、「地域による不登校支援ができないか。」との声が上がる一方、「地域の立場で、不登校の児童に対する声の掛け方に不安がある。」との意見もあり、**熟議の結果、地域の大人が不登校支援について学ぶ場を設けることとなった。**

◆地域・保護者・教職員等による学び「地域に開かれた校内研修」

令和5年8月、夏季休業期間中に、**地域・保護者・教職員を対象に、さまざまな児童に対する声の掛け方等を学ぶ講座を実施した。**講師に、所沢市教育センター指導主事と相談員を招き、不登校の実態を知り、児童への声の掛け方等、ロールプレイを通して具体的に学んだ。本講座には、民生委員・児童委員、放課後子供教室スタッフ等の地域住民や保護者が多く参加したが、実施前は受講者の見込み数が分からなかったもので、**教職員の校内研修を地域に開く形式とした。**

◆学びを生かした「ふらっと(FLAT)サポーター」の立上げ

令和5年10月、第2回学校運営協議会にて、8月の講座での**学びを生かし、サポーター制度を立ち上げた。**「ふらっと(FLAT)サポーター」という名称には、子供とFLATな目線で支援してほしいという願いと、地域の方が散歩等の途中で、ふらっと学校に立ち寄ってほしいという思いを込めた。サポーターの人数も立上げ当時の20人から50人ほどに増え、不定期ではあるが、校舎内の見守りや、さまざまな児童の支援に当たる姿が見られるようになってきた。

成果・効果

- ◆サポーターが、不登校児童を直接支援するケースは稀であり、現時点で不登校の状況に大きな改善は見られないが、**地域の方が来校する機会が増え、休み時間等に地域の方と児童が関わり合い、ふれあう光景が見られるよう**になってきた。
- ◆学校運営協議会で地域行事の在り方等を熟議し、学校開放運営委員会（地域学校協働本部）で詳細を検討するサイクルが構築されつつあり、その過程で**団体や施設間の連携がスムーズになり、地域学校協働活動が、さらに充実**してきている。



R 5 学校評価	学校運営協議会 制度の理解 (教職員)	地域人材との 積極的な連携 (教職員)
前期	76%	71%
後期	84%	92%

埼玉県小鹿野町

学校

小鹿野町立両神小学校

小鹿野町立小鹿野小学校、小鹿野町立長若小学校、
小鹿野町立三田川小学校、小鹿野町立小鹿野中学校

学校運営協議会

小鹿野町学校運営協議会

令和4年6月16日 設置

委員構成

学校応援コーディネーター
放課後子供教室コーディネーター
元PTA会長
PTA役員
民生委員
児童委員

など

20名

会議回数

年間平均 3 回程度

地域学校協働活動推進員等数

()内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員 0 名 (0 名)

地域コーディネーター 20 名 (5 名)

地域学校協働活動

両神小学校地域学校協働活動

学校と学校運営協議会、学校応援団等との有機的連携を通じた地域学校協働活動の一体的推進

背景・取組概要

- 小鹿野町は自然豊かで稲作体験など地域住民による子供たちへの**体験活動**が盛んである。また図書館や公民館など学校近くに社会教育施設があり、子供たちは地域の様々な行事に参加したり、地域の催事やイベントで学校が教育活動の発表をするなど、**学校と地域の結びつきが強い**。
- 小鹿野町の強みである**「地域と密接な町」**を活かす為に、学校運営協議会において、学校や学区の垣根を越え、小鹿野町として9年間一貫した教育を実施するための目指す児童生徒像や学校像について熟議を図り、**地域と共に歩む学校づくりを目指す中学校区の学校運営協議会**を設置。
- 『めざす学校像、めざす児童像を地域で共有し、実現する地域学校協働活動』**を柱に掲げ、地域の子は地域で育てる教育環境を確立するため、より多くより幅広い地域の住民や団体・組織が有機的連携を通して小鹿野町の地域学校協働活動が一層充実することを目指した。

工夫・ポイント・特徴的な取組

○学校運営協議会を中心とした地域との連携

本町では中学校区で学校運営協議会を設置している。協議会は小学校4校、中学校1校の学校関係者から組織されるが、自身の校区以外の教育活動については、どのような教育活動をしているか知らないこともあるため、十分な熟議を図るべく検討を重ね、学校運営協議会の流れを①「小鹿野町の目指す子供像・学校像を共通理解」、次に、①を受けて②「各学校の実践の共有」、②を受けて、③「各学校毎の取組について熟議」することで、「町が目指す姿に沿っているか」という視点での協議が可能となった。さらに、**各校で実践している教育活動を共有し、各学校の良さを自校に還元したり、地域学校協働活動を一層充実させる**為の方法についての熟議ができた。協議会を重ねるごとに学校運営協議会委員は「学校の代表」としてではなく、「小鹿野町の代表」としての参画意識をもって活動するようになった。

○薬師堂マーケットの取組

「かつてにぎやかな縁日や市が立っていた薬師堂を再現することで自分たちの住む地域を活性化させたい」という児童の思いに、明治大学商学部中川ゼミの賛同で実現に向けて準備が進められた。檀家、同町地域おこし協力隊、企業・農家、町役場の各課も全面協力した。児童が作成したオリジナルのキーホルダーやおみくじの他、地元企業も地域の特産品等を出品するなど、**当日の参加者は200人を越え、盛大な催し**となった。薬師堂マーケットで得た売上金は、木製のベンチを作成するなど、薬師堂復興のために活用している。

○両神山登山

両神小学校の学区内には、埼玉県で唯一**日本百名山に選定されている両神山**がある。古くから山岳信仰の霊峰として知られるこの山には、以前は小鹿野高校、旧両神中学校の生徒が登山し、心と体を鍛え、郷土愛を育んできた。両神中学校が統合により閉校し、平成28年には両神小の5、6年生がはじめて両神山登山に挑戦。その後、コロナ禍の中断を経て令和4年に再開された。自然公園指導員や山岳救助隊員、小鹿野警察署、小鹿野町役場職員の協力のもと、児童の安全を確保しながら地元の名峰を登山することで、**郷土への誇りや愛着、地域とのつながりを深めることができる取組**である。

成果・効果

- 学校運営協議会において、**「小鹿野町が目指す子どもの姿や学校の姿を実現するための地域参画」**というテーマのもと年間を通して熟議を図ることができた。
- 小鹿野町立両神小学校では、埼玉県が実施した学習状況調査における「今住んでいる県や市町村の歴史や自然に関心をもっていますか」という質問項目に対し、**全ての学年が県の平均値を大きく上回った**。



R 4		R 5	
埼玉県	本校	埼玉県	本校
4 年	75.5	66.7	64.9
5 年	72.8	92.8	69.0
6 年	63.5	100.0	76.2

埼玉県

学校

埼玉県立大宮工業高等学校

学校運営協議会

埼玉県立大宮工業高等学校 学校運営協議会

平成31年4月1日設置

委員構成

保護者・PTA関係者
地域自治会長
地域小学校長
地域中学校長
企業代表
大学教員
校長

など 10名

会議回数

年間平均 3 回程度

地域学校協働活動推進員等数 ()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員 0 名 (0 名)

地域コーディネーター 0 名 (0 名)
※マイスター・ハイスクールCEOを1名
配置し、学校と企業、地域等の
連携を強化

地域学校協働活動

大宮工業高等学校 地域学校協働活動

地域連携教育

背景・取組概要

◆目指す学校像「日本を支え 世界で活躍する 人間性豊かなエンジニアの育成」(全日制)、「心豊かな人間を育成し、生徒の夢を実現する学校」(定時制)を掲げ、工業の高度な専門教育に加え、技術を利用する人へ配慮するエンジニアの育成を行っている。その一環として、地元地域と連携した「協働教育」の充実を目的とし、平成31年に学校運営協議会を設置。以後、**自校の教育活動の充実と地域の小中学生へのものづくりへの興味関心の育成を行っている**。

◆学校運営協議会設置当初より、工業教育の専門性を高めると共に地域との繋がりの強化に資する委員でバランスよく構成して、工業高校の専門性を地域に還元している。更に、近年では、マイスター・ハイスクール事業を基軸とし、地域連携・専門性向上を強化した取組をしている。

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆学校運営協議会

マイスター・ハイスクール事業や創立100周年について、情報共有、見学の機会を設定した他、地域、企業、学校の連携の円滑化や生徒募集のアイデアについてグループ協議を行うなど、協議会の運営を工夫し、協議を充実させている。協議から、地域課題の解決に向けた取組(小学校の修繕)、学校説明会の新たなアイデアや生徒提案の「私服DAY」の取組がスタートするなど、課題解決や協議、協働活動を通して**地域との緩やかなネットワークを形成**している。

◆地域学校協働活動「地域連携教育活動」

「ものづくり教室」(平成25年から)に始まり、学校運営協議会の熟議や提案、コーディネートにより活動は発展・充実している。今年度は、「小学校チャレンジ・スクール」3Dプリンタ教室「プログラミング教室」「LEDイルミネーション教室」を開催。**毎年、多くの地域小中学生が参加し、委員が見学・巡回を行い、取組の様子を共有するとともに、新たなアイデアが活動へと結びついている**。

また、「中高連携STREAMS教育プログラム」では、高校生がプログラム開発し、「ロボット設計図づくり」「自動停止ロボットのプログラム」を**高校生が中学生に教え、ロボット作成に取り組んでいる。これまでの大学との連携からさらに一歩進んだ取組となっている**。
それぞれの取組で、学校運営協議会委員が仲介をし、**児童館・公民館等とも連携し、地域の小中学生のものづくりへの興味関心を継続的に育て、地域とともにある学校づくりを行っている**。

◆コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施

学校運営協議会で、地域課題について、共有・協議の結果から、地域の学校の修繕を通じた実践的な学びが行われている。また、マイスター・ハイスクールCEOのコーディネートにより、多数団体の協力を得て、地域、企業、大学等が参加する進路フェア(キャリアデザインアゴラ)を開催している。更に、委員申出で、地域の中学校生徒が参加するなど、ものづくりへの興味関心・キャリア教育を充実させている。

成果・効果

◆【学校関係者評価】

「地域小学校、中学校との交流事業、地域への働きかけ等を通じ、長年にわたり「地域に開かれた学校」に努めてられている」との
高い評価を得ている(R5)。

◆【豊かな人間性を備えたエンジニアの育成】

参加者から非常に高い評価を得ていると共に、地域の小中学生のものづくりへの興味関心を高めている。さらに、学校運営協議会設置の
目的である**「協働教育」の充実は、地域連携教育活動の種類、回数が増えることで実現し、学校と地域で豊かな人間性を育んでいる**。



埼玉県戸田市

学校

戸田市立戸田南小学校

学校運営協議会

戸田南小学校学校運営協議会

平成30年4月1日 設置

委員構成

- 町会関係者
- PTA関係者
- 学校応援コーディネーター
- 公共施設の代表
- など 10名

会議回数

年間平均5～6回程度

地域学校協働活動推進員等数 ()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員0名 (0名)

地域コーディネーター 3名 (1名)

地域学校協働本部

南っ子サポーター

学校運営協議会をハブに家庭・地域が後押しをする学校における働き方改革

背景・取組概要

- ・学習指導要領が求める新たな学びに向けた授業改善、子供たちの健やかな育ちを真剣に考え、働き方改革を最優先にとの考えのもと、市を挙げて教育DXなど業務効率化を進めるとともに、校長としても様々な業務改善を推進してきた。
- ・令和5年8月に中央教育審議会が教師を取り巻く環境整備について緊急的に取り組むべき施策（提言）が発出されたが、市教委や学校主体で取り組めることにも限界が見えてきたところで、**保護者や地域住民、企業など社会全体が一丸となって課題に対応する必要**がある。
- ・**目指す学校像に「家庭・地域と一体となって子供を育てる学校」**を掲げ、「地域に開かれた学校」として地域との交流を重視することを宣言し、「学校の壁」を低くするとともに、できることは直ちに行うという考えのもと、地域住民等が参加する学校運営協議会を核とした取組を進めてきた。

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆学校運営協議会

学校運営協議会委員には授業見学、学校行事への参加の案内等を含めて積極的な情報提供している。最近では**子供たちを交えた熟議の実施や、総合的な学習（PBL）の成果を学校運営協議会で発表する場**を設けるなど、子供たちの学習の成果や成長を見たいという機会も設けている。

学校における働き方改革などセンシティブなテーマを取り扱う際には、**市教委任用のCSディレクターの派遣**を要請し、双方を取り持つ第3者の立場からファシリテートしてもらっている。また、学校における働き方改革に関するテーマは**教職員を交えた拡大大学校運営協議会での熟議の実施を含め、継続的に取り組む**など重点的に取り組んでいる。

◆地域学校協働活動

登下校の見守りをはじめ、運動会や音楽会等の学校行事の運営等について地域の方の支援を受けている。日々の**地域学校協働活動の様子は学校のSNSで発信**している。また、地域からの提案を契機に**校内に地域掲示板を設置し、町会や子ども会等からも地域の情報を発信**している。

◆コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施

持続可能性の確保や、現場のリアルな課題を吸い上げ、学校運営協議会で議論し実働へと円滑に繋げられるよう、**地域学校協働活動のコーディネーターの代表に学校運営協議会委員を委嘱**している。

成果・効果

- ◆学校・学校運営協議会委員等からの積極的な情報発信により、地域住民・保護者や関係機関等の理解と協力が得られやすくなっている。**学校運営協議会での議論を契機に新しい支援に繋がつたり、多くの児童が子ども会の活動に参加するなど活発化**している。
- ◆学校と家庭・地域の相互理解促進・信頼関係の構築により、**学校運営協議会での本音の議論、取組の見直しやスクラップが可能**になっている。実際に、働き方改革をテーマとした熟議の結果を踏まえ、昨年度から入学当初の1年生の登校後や休み時間の見守りや給食準備、清掃などの生活支援を地域の方に依頼した。また、学校ボランティア募集のチラシや学校における働き方改革推進に係る手紙の町会回覧の実施、定時退勤weekの設定、留守番電話への切替え時間の見直し等も実現している。一方で、委員の声から校内に地域の情報を発信する掲示板を新設したり、地域の方が生き生きと活動する場を増やしたりすることにも繋がった。
- ◆令和5年度学校評価（教職員）では「**学校は、地域の教育力を教育活動に活用している。**」の項目で**肯定的回答が100%**であった。



戸田南小学校学校運営協議会
委員 市教委 校長 教頭 教員 保護者 地域住民 企業代表

【地域の学校運営協議会】
1月18日、午前中に戸田南小学校で第4回学校運営協議会を開催しました。
協議会では、前回に開催された戸田南小学校運営協議会に引き続き、文部科学省の「ご近所」の取組として、地域と連携して学校運営を進めるための取組について話し合いました。
協議会では、協議会の運営など、地域からの意見を踏まえて、協議会の取組を進めています。
協議会では、協議会の取組を進めるための取組として、協議会の取組を進めています。
協議会では、協議会の取組を進めるための取組として、協議会の取組を進めています。



第4回
学校運営
協議会